



報道発表資料の配付日時 8月19日(木) 10時00分

発表項目 (行事名)	第10回北海道自動車安全技術検討会議の開催について				
概要	<p>○ 本検討会議は、本道のポテンシャルを活かして、交通安全や高齢者の移動支援といった社会課題の解決に貢献するとともに、研究開発面から本道への自動車産業の一層の集積を促進するため、<u>産学官の連携のもと、自動運転に関し、企業等が行う実証試験の円滑化や研究開発の促進などに資する環境整備や情報提供を行うことを目的に、平成28年6月に設置。</u></p> <p>○ 今回は、内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室より、本年6月に公表された、官民ITS構想・ロードマップに係るこれまでの取組と今後のITS構想の基本的考え方について説明いただくほか、日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社より、センサーによる認識を補助するコーティング技術について説明いただく予定。</p> <p>1. 日時：令和3年8月27日（金）14：00～16：00 2. 場所：オンライン開催（Zoomミーティング） （事務局）TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階 カンファレンスルーム5I（旧名称：ライラック） 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館</p> <p>3. 議事：別紙次第のとおり 4. 参集範囲 ・参画機関（北海道警察本部、北海道開発局、NEXCO東日本、北海道運輸局、北海道経済産業局、大学・高専、研究機関、関係市町村、道等）、道内にテストコースを立地する企業、自動運転に関心のある企業 等</p>				
参考	・検討会議の概要は、別紙のとおり。				
報道（取材）に当たってのお願い	<p>・当日の積極的な取材につきまして、ご協力をお願いいたします。</p> <p>・当日の取材については、<u>会場・オンラインのいずれでも可能ですので、取材される場合は、8月25日（水）15時までにご連絡ください。</u></p> <p>・新型コロナウイルス感染予防のため、会場への入室は1社1カメラ1ペンでお願いします。（受付で体温測定します）</p> <p>・入室の際は、マスク着用をお願いします。また、発熱や咳、くしゃみ等の症状のある方は取材をお控え願います。</p>				
他のクラブとの関係	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">同時配付</td> <td style="width: 50%;">(場所)</td> </tr> <tr> <td>同時レク</td> <td></td> </tr> </table>	同時配付	(場所)	同時レク	
同時配付	(場所)				
同時レク					
担当 (連絡先)	<p>(北海道自動車安全技術検討会議窓口) 経済部産業振興局産業振興課IT産業係(担当者：村上、金子) TEL ダイヤルイン 011-206-6756 (内線26-813)</p>				

第10回 北海道自動車安全技術検討会議 次第

日時：令和3年8月27日（金）14:00～16:00

場所：オンライン開催（Zoomミーティング）

（事務局）

TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階

カンファレンスルーム5I（旧名称：ライラック）

北海道札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館

1 開会

2 主催者挨拶

3 議事

(1) 情報提供

① 官民ITS構想・ロードマップ

これまでの取組と今後のITS構想の基本的考え方

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室 参事官補佐 榎本 太郎 様

② 寒地土木研究所からの話題提供

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

寒地道路研究グループ寒地交通チーム 主任研究員 宗広 一徳 様

技術開発調整監付寒地機械技術チーム 主任研究員 舟橋 誠 様

—— 休憩（換気）（10分） ——

③ 自動運転社会に貢献するコーティング材料と技術

日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

開発部 新規事業創出グループ マーケティングチーム 八幡 修平 様

④ 令和3年度「地域新Ma a S創出推進事業」について

経済産業省北海道経済産業局 製造・情報産業課 係長 岡部 順 様

(2) 事務局からの活動状況報告

北海道 経済部 産業振興局 産業振興課

(3) その他

4 閉会

北海道自動車安全技術検討会議の概要について

1 目的

- ・本道のポテンシャルを活かして、交通安全や高齢者の移動支援といった社会課題の解決に貢献するとともに、研究開発面から本道への自動車産業の一層の集積を促進するため、産学官の連携のもと、自動運転に関し、企業等が行う実証試験の円滑化や研究開発の促進などに資する環境整備や情報提供を行う。

【本道のポテンシャル】

- ・全国最多、28のテストコースが集積。
- ・広大な土地や寒冷な気候を活かし、多様な実証試験モードの提供が可能。
- ・理系大学をはじめとした研究機関やIT企業などが集積。
- ・自動運転を取り巻く社会課題に関する多くの実証テーマが存在
→交通事故抑止、移手段の確保（高齢者・観光客等）、冬道対策など

2 取組内容

- ①北海道自動車安全技術検討会議（実会議）の開催（年2回程度）
- ②自動運転の実証試験に関するワンストップ相談窓口の運営
 - 実証試験適地検討のための支援ツール（公道・公道外データベース、適地集等）の提供
 - 実証試験の実施や社会実装を目指す企業等と地域での実施や導入を希望する市町村等の紹介・マッチング
 - 警察庁「自動走行システムに関する公道実証実験のためのガイドライン」（H28.5）に基づく関係機関（道警本部、道路管理者、北海道運輸局）への事前連絡をワンストップで受付
 - 実証試験の実施に伴う関係機関との協議（道路使用許可、保安基準緩和申請等）に係る支援 など

3 取組イメージ

※令和3年8月現在

